リーディングDXスクール事業 【GIGA×指導の工夫・改善】

新潟市立鏡淵小学校（新潟県）【指定校】

【GIGA×指導の工夫・改善】　６年生　社会　学習計画

６年生の社会の授業では、児童が学習課題を作り、毎時間自分の課題解決に向けて学習を進めた。

＜単元の１時間目＞

単元の1時間目には、ゴールや達成基準、単元を通して出てくる重要なキーワードを示した。また、導入では、2、3つ程度の資料を提示して、そこから疑問に思ったことや解決したいことを児童が考えた。インターネットではさまざまな情報が手に入るが、大事にしたい資料は教師がしっかり準備して、提示することが大切である。

＜可視化された情報のどこに着目したか＞

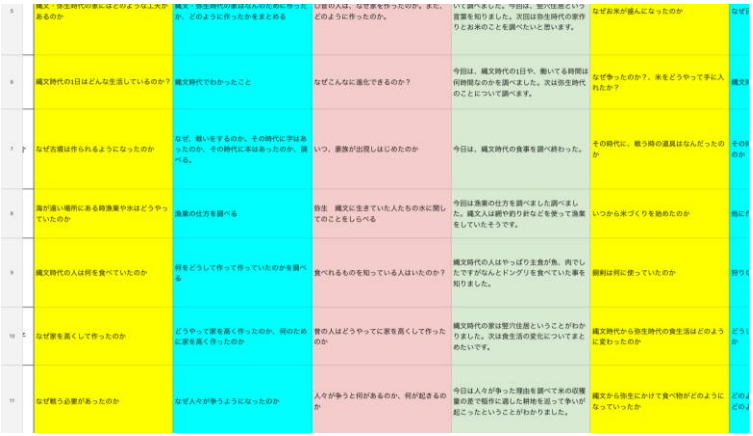
教師は、子どもがアウトプットした情報だけをたよりにはしていない。児童の目・誰とかかわっているか・手は動いているかなどをよく見て、毎時間全ての児童に声をかけ、支援した。似た課題に取り組んでいる児童同士をつないだり、何を見たら解決できそうかを一緒に考えたりした。

＜次時の指導の改善にどのように生かしたか＞

本時で子どもが何を学び、新たにどんな疑問が出たか。ふりかえりに着目した。コメントを書いたり、学びの方向性を授業の始めに児童と一緒に確認したりして、ゴールに向かっていけるようにした。

＜児童に見られた変容＞

このような学習の積み重ねにより、児童に見られた変容は次の2つである。

①友達がアウトプットした情報を見ることを通して、自然に対話が増え、課題を深く追究することができた。

②学習のゴールを意識することで、「この単元を通して、何を学ぶのか」を、主体的に考えられるようになってきた。